清記用紙（番号 1 ）

（ 秋 ）写

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
心仁の大乱に咲くさくらかな	ストレートテニス一匙秋愁ひ	鳥籠を出だし月光浴びせたり		神棚の榊一本秋の晴	秋寂びぬ鉄打ち終へし掌の皺へ		柚子坊のむぎゅっと踏まれ角出しぬ	ろくしき	六識の移ろふ秋の気配かな

南柯句会

2

清記用紙（番号　）

（2ぼ　）写

1	秋晴れや何も載せずに野面積み（のずら）
2	スカートの中で脚組むそぞろ寒
3	鰯雲せがれ転職したといふ
4	天高し寺の大猫譲渡会
5	
6	風に乗り笛の音聞こゆ村祭（ね）
7	刈り跡は稲雀の田となりにけり
8	ファミレスに配膳ロボの秋うらら
9	あず
10	小豆ごはん京の毒抜き秋の朝

南柯句会

清記用紙（番号3）

（米田よし）写

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
秋高し打球はシャープ奏でたり	新聞とスマホを交互に夜長かな	窯の跡静けさ破る鉦叩き	旅先の車窓打ちたる秋の雨	登園は父に抱かれて天高し	さびれたるぶらくり丁の星月夜	選ばざる道は消えたり今日の月			

南柯句会

清記用紙（番号 4 ）（ 梅句 ）写

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
芋洗ふ女に星は瞬きぬ	野外能黄泉と現世に白い月	残照に少し焦げたる稲雀	網を張る塩の手離れ大相撲	不器用な左手に似し初紅葉	飛鳥史を辿るどこそこ曼殊沙華	白ひより早く目に入る金木犀			

南柯句会

清記用紙（番号5）　（わこ）写

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
航跡は人に会うべく日生流る		魚群追ふ海鳥の如稲雀	法被着て子らつわっしょいしと秋祭り	十三年数ふる指や夜長かな	虫時雨UFO今も見つけるよ		土塊の紅鮮やかに甘藷畑（いも）		愛着の眼鏡（めがね）を捨てる白秋忌

南柯句会

清記用紙（番号6）

（山下疾風）写

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
いそいそと家族の集ふ松茸飯		ぴかぴかに窓拭き上げて秋高し	眼科歯科巡りて見上ぐ鰯雲	枯れてなほ十兵衛杉や秋高し		焼き印の放馬相寄る露の朝	枝豆や大衆といふ心地よさ		まだ青き穂の乳甘し稲雀

南柯句会

清記用紙（番号 7）

（上窪泰千）写

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
山道の缶に銭音柿を食ふ	一斉に刈田となるや日曜日		ふぞろひの栗飯どんと椀に盛る	秋風の歌へば悲しボブディラン		脳に靄かかる重さの秋思かな	病む子へと急行車窓稲雀		炊きたての新米放つ艶びかり

南柯句会

清記用紙（番号8）

（近藤和草）写

1	二歳児に世話をされるや稲雀
2	脂（あぶら）鳴る下り鰻の骨黒し
3	石垣の外なかりけり城の秋
4	
5	稲雀群れに群れたる稲穂かな
6	
7	しならせて頭を下げて稲雀
8	
9	鷭去し猿沢池や秋の鐘
10	新涼のならまち器量よしとなる

南柯句会

清記用紙（番号9）

（秋霜）写

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
	収穫を先回りして稲雀	六十回目の秋花屋開店す	そぞろ寒風吹き抜し浮見堂	稲雀ミレーの絵画を真似たのか		食べ頃と逃げ頃知るや稲雀	ゆらゆらと夜風に揺れる虫の声	仁丹の看板下ル虫の闇	

南柯句会

清記用紙（番号 10）

（関洋子）写

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
秋澄むや海を丸めて日の沈む	孫帰り戦(いくさ)の後の障子貼る	稲雀母の大正昭和かな	咳(そうがい)外メ切りは明日に迫りぬ	月窓外メ切りは明日に迫りぬ	刈り終へて一陣二陣の稲雀		廃園の庭秋蝶と滑り台		穂のさやぎ里のさやぎや稲雀

南柯句会

清記用紙（番号 11）（しゃほん）写

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
秋うらら寿司を食ったりキスしたり	稲雀国はじまりの里暮るる	薬湯や上がるを惜しみ秋の暮れ	大きさも艶も無双の丹波栗	稲雀とぶ金堂の屋根の反り	秋澄むやブロンズ像の虎の爪	今朝よりは金木犀の道となる			

南柯句会

清記用紙（番号 12）

（福田 洸弥）写

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
湯河原館衝立に飛ぶ稲雀	銀テープの波掻（か）い潜（くぐ）り稲雀		怠らぬ避難訓練稲雀	晩秋や落書き多き俳句帖	威統にも平然たるや稲雀		稲雀空を濁して畑を舞ふ	秋晴や特売野菜買い逃す	

南柯句会

清記用紙（番号 13）

（守彦）写

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
無数のif（イフ）ありて今あり天の川	嘴（くちばし）は地（ち）の乳（ちち）摘む稲雀	食卓のコスモス二輪野の日差し	稲雀群れて一羽の粗忽（そこう）者	稲雀口（くち）鉄（でつ）砲（ぽう）で追ひにけり	繋がれし鷹を横目に稲雀	登高や瀬戸大橋を見おろせり			

南柯句会

清記用紙（番号14）

（鮫島しょうこ）写

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
生栗やむつちむち喰む頭蓋骨	束ね捥ぐ夕餉一輪韮の花	頂に鉄塔残し露の中	金色の稲穂の波や稲雀	花の色違って当然秋桜	朝露の日は仄赤く隠れ得ず	大正池立ち枯れの木に冬近し			

南柯句会

清記用紙（番号15）

（友澤一途）写

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
雨の日の雨の音聞く九月かな	秋日和晴れに晴たる路土かな		戦略は天地いっぱい稲雀	稲雀風の列のすぐ隣	龍の棲む池畔にスタバ小望月		板長の白衣一服秋の暮	下り鰹脂焦げたる網黒し	

南柯句会

清記用紙（番号 16）

（真一）写

1	減速の車窓賑やか稲雀
2	秋蛙（あきがえす）いろんなポーズでぺっちゃんこ
3	
4	草の実や家の角（すみ）より荒れ始む
5	大峰の水さらさらと新豆腐
6	
7	稲雀群（むれ）をはぐれて追われけり
8	携帯のメール消去す夜長かな
9	
10	なぞなぞを出し合いながら鰯さく

南柯句会

清記用紙（番号 17）（花み）写

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
			紅葉を歩き疲れて山の宿	唐茄子や水玉に受うす西家	新米の値段は安く感じけり	朝寒やバイクに乗りてモーニング	逃げ散りて風に乱るる稲雀	八窓の切り取る秋の距離	爽やかのテラスさやけしハーブティー

南柯句会

清記用紙（番号 18）

（二罪）写

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
			稲雀たたむ扇や田に呑まる	稲雀右のポツケに日のお焦げ	ひとり居や夜の輪郭なぞる秋	不揃いの色なき風に山河あり	稲雀リスクにまさるベネフィット	重戦車てんとう虫の昼日和	激石の書斎に女秋と投句箱

南柯句会

清記用紙（番号 19）

（田彦）写

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
稲雀田の面に川鳥（かわがらす）は川に	ひとまずは簞笥一段冬支度		すずなりの更に撓みて稲すずめ	膝小僧に傷よ組体操さやか		黄昏れて蜻蛉の後を彷徨えり	稲刈りの今年までよと腰さする		珈琲の香り楽しむ寒露つな

南柯句会

清記用紙（番号 20）

（太陽）写

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
ばんせいせつ	万聖節待合室のJ-POP	ラップ丸めの松茸ごはん貰ひけり	ロープウエイ眼下早くも薄紅葉		中華屋のおかもち秋日照りし昼	祖母作る古き土鍋のむかご飯		飛行機がゆっくり動く秋の空	散る落葉追ひ越してゆく雨滴

南柯句会